

News

ニュース

都市文化研究センターの活動

山野 正彦

2006年度事業計画

2006年4月3日付で、文部科学省から正式な18年度補助金交付決定通知書（交付決定額4,070万円）が届いた。本COE研究拠点形成事業も、今年度で5年目を迎え、いよいよ最終年度となる。事業全体の総括と、中間評価後の修正を含めた当初の事業目的の達成を念頭においた事業計画を立てた。

予算の重点は、①2006年9月から10月にかけて集中的に開催予定の「COEウィークス」関連行事（研究集会、院生向け特別講義、市民講座、アート祭等）、とりわけ10月1日に開く国際シンポジウムと、②都市研究アーカイブスの構築におかれている。国際シンポジウムは「文化遺産と都市文化政策」というテーマで、海外サブセンターの優秀な共同研究者を招聘し、事業の総括を意識した議論の展開と成果の統合を図る予定である。

国際シンポジウム『都市文化理論の構築に向けて』開催

2006年3月18・19日の両日、大阪市立大学全学共通教育棟を会場に、表題のシンポジウムを開催した。このシンポジウムの直接の課題は、1) アジア諸都市が蓄積してきた多角的な文化を比較史的な手法を用いて検討すること、2) 伝統的な都市文化の継承と活用である。

18日の第1部では、歴史学者アンソニー・リード（シンガポール・ナショナル大学教授）の「アジアにおける沿海貿易の伝統としての世界都市」を基調に、濱下武志（京都大学東南アジア研究所教授）「東アジア海域における沿海都市間ネットワークの歴史の変遷」、中川真（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）「グローバル化時代における東南アジア都市文化創造のダイナミクス」の発表

が行われ、15世紀ごろから現代にいたる間の、東南アジア・東アジアの都市交流ネットワークの生成と展開に関する議論が行われた。

19日には「都市文化創造のための基礎研究」として、歴史学、地理学、人類学、情報コミュニケーションなどの分野を中心とした、本COE研究課題の実践研究のための具体的な課題に関する突っ込んだ見解を含む報告が行われた。

このシンポジウムは理論構築に寄与しようとする目的を持つものであったが、いろいろな学問領域にまたがる各報告者の具体的な事例研究や実践に基づいた文化研究の多様な方法論とグローバルな視座の提示が、随所で重なり、交錯し、学際的な本COE研究課題の達成に寄与するであろう、有益な知見や展望をもたらすものとなった。

都市研究プラザの開設

大阪市立大学は2006年4月1日付で、都市研究とまちづくりネットワークの拠点としての新たな組織「都市研究プラザ」を開設した。同日付で、この組織の専任教員として、文学研究科教員でCOE事業推進担当者である、水内俊雄教授と橋爪紳也教授が文学研究科を兼任する形で移籍した。

2006年度COE研究員・COE特別研究員

前年度までと同様に3月に応募を締め切り、COE研究員34名、同特別研究員20名（いずれも無給者を含む）を選任した。COE研究員1名、特別研究員1名は学外者である。

ジャワ島大地震

2006年5月27日にインドネシア共和国のジャワ島中部を震源とする大きな地震が発生した。本COEプログラムの海外拠点のあるジョクジャカルタ市は震源に近く、大きな被害を受けた。COE事務局は直ちに見舞いの電報をガジャマダ大学とインドネシア国立芸術大学の関係先あてに送るとともに、東南アジア研究チームの中川真氏（大阪市立大学大学院文学研究科教員、COE事業推進担当者）を中心に、学術交流協定を結んで共同研究を行っている両大学の関係者の安否や罹災状況について情報収集に努めた。

幸い人命に関わる被害はなかったが、インドネシア国立芸術大学では、多数の校舎が倒壊し、

教育研究に支障をきたしているとの報が入った。文学研究科教授会は両大学の震災復興支援のための募金活動を行うことを決定し、とりあえず6月16日までに集められた募金を両大学に届けることにとりあえずした。

COE事務局の活動

2004年4月から勤務していただいた、事務員の荒平みほさんは、2006年4月末をもって転出・退職した。また事務補助の坂本美加さんは3月末に退職した。替わって岩澤孝子さんが5月から週2日勤務している。

センター会議の開催

- 第43回 2005年12月 7日 (水)
- 第44回 2006年 1月11日 (水)
- 第45回 2006年 2月15日 (水)
- 第46回 2006年 3月15日 (水)
- 第47回 2006年 4月12日 (水)
- 第48回 2006年 4月26日 (水)
- 第49回 2006年 5月17日 (水)
- 第50回 2006年 6月 7日 (水)
- 第51回 2006年 6月28日 (水)
- 第52回 2006年 7月12日 (水)

大阪プロジェクト・重点研究の活動

塚田 孝

第7号に掲載した分(2005年12月まで)以後、2006年7月までに行なってきた活動は、以下の通りである。

研究会活動

① シンポジウム「中国の王権と都市——比較史の観点から」

2005年12月17日(土) 9:30～17:00
大阪市立大学学術情報総合センター 1F文化交流室

報告：妹尾達彦(中央大学文学部教授)「前近代中国都市史総論、都市と王権」

岡本不二明(岡山大学大学院文化科学研究科教授)「唐宋時代都市における庶民の娯楽、イベント」

渡辺健哉(東北大学大学院文学研究科研究助手)「元の首都大都の形成」

新宮 学(山形大学人文学部教授)「明の首都(南京、北京)の政治」

河原 温(首都大学東京大学院人文科学研究科助教授)「中世フランドル都市における君主の入市儀礼」

仁木 宏(大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進担当者)「日本中世における首都京都と王権」

コメント：平田茂樹(大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進協力者)

② 国際シンポジウム「文献資料学の新たな可能性」(特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—」との共催)

2006年1月28日(土) 9:30～18:00

大阪市立大学学術情報総合センター 1F文化交流室

報告：平田茂樹(大阪市立大学大学院文学研究科助教授)「シンポジウムの目的」

遠藤隆俊(高知大学教育学部教授)「義天と成尋—11世紀東アジアの国際環境と入宋僧—」

Hilde de Weerd(アメリカ：テネシー大学準教授) Byways in the Imperial Chinese Information Order: The Dissemination and Commercial Publication of State Documents

陳智超(中国：中国社会科学院教授)「宋代文献的解読と利用：以清明集與宋会要爲中心」

中村春作(広島大学大学院教育学研究科教授)「課題としての訓読」

牟登松(中国：華東師範大学教授)「石刻史料所見漢隋社会及其与国家之關係」

鄧小南(中国：北京大学教授)「考古発掘料与唐宋女性研究」

劉靜貞(台湾：東呉大学教授)「文物、文本、語境—宋代墓志史料の性質と運用」

総合討論「文献資料学の新しい可能性」
〔総括ディスカッサント〕平田茂樹

③ 比較都市文化史研究会(国際理論シンポジウム準備会〔大阪プロジェクト関係〕)

2006年2月18日(土) 13:30～17:00

大阪市立大学法学部棟6F第2会議室

報告：仁木 宏(大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進担当者)「前近代日本における都市空間と文化形成」

山下聡一(COE研究員)「伊藤毅『都市建築史の視点』を読む」

中村圭爾(大阪市立大学大学院文学研究科教

- 授, COE事業推進担当者)「辛徳勇『清代都市の路上に見る公共文字情報』の論点」
- ④ 比較都市文化史研究会「中国沿海地域における都市と国家及び地方秩序」
2006年3月11日(土) 13:00～17:00
大阪市立大学法学部棟6F第2会議室
報告: 汪利平(ミネソタ大学準教授)「杭州城の建設と清朝権力との関係」
谷井俊仁(三重大学人文学部教授)「官制は如何に叙述されるか—『周礼』から『会典』まで—」
井上 徹(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「明代広東における沿海地域の秩序変動」
- ⑤ シンポジウム「近世大坂の法と社会」(共催: 近世大坂研究会・都市史研究会)
2006年4月29日(土) 13:00～17:00 / 30日(日) 9:30～17:00
大阪市立大学学術情報総合センター 1F文化交流室
報告: 塚田孝(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「近世大坂の法と社会」
松本良太(東京大学史料編纂所助教授)「江戸の町触について」
杉森哲也(放送大学助教授)「近世初期京都の都市法と都市社会」
コメント「西洋・中国における法の伝達」
井上 徹(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者・明清期)
井上浩一(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者・ビザンツ期)
報告: 野高宏之(大阪市史料調査会)「町触とは何か—『大阪市史』町触の再検討—」
安竹貴彦(大阪市立大学大学院法学研究科教授)「延享期の大阪町奉行所改革」
海原亮(住友史料館)「都市大坂の医療文化と町触規制」
岩城卓二(京都大学人文科学研究所助教授)「尼崎藩における町触廻達」
コメント: 吉田伸之(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
- ⑥ 比較都市文化史研究会
COE研究員の博士論文作成にむけた中間の研究報告を, 2回に分けて実施した(会場は大阪市立大学法学部棟6F第2会議室)
2006年5月26日(金) 13:00～17:00
西尾泰広(日本史学) / 足立匡敏(国語国文学) / 凶師宣忠(西洋史学) / 大橋庸子(社会学)
- 2006年6月23日(金) 13:00～17:00
天野忠幸(日本史学) / 山口智哉(東洋史学) / 木村容子(西洋史学) / 堤圭史郎(社会学)
- ⑦ 国際研究集会「文化資源としての宗族—中国の系譜と伝説」(特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—」との共催)
2006年7月8日(土) 10:30～17:00
大阪市立大学法学部棟6F第2会議室
報告: 井上徹(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「趣旨説明」
常建華(南開大学教授)「明清時期の華北における宗族の組織化—山西洪洞の晋氏を例として—」
遠藤隆俊(高知大学教育学部教授)「宋代史から見た中国人の系譜」
瀬川昌久(東北大学東北アジア研究センター教授)「今日の南雄珠璣巷伝承—広東本地人アイデンティティと愛国主義」
秦兆雄(神戸市外国語大学中国学科助教授)「個人の視点から見た宗族の組織化と分裂化—湖北省の事例—」
荒武達朗(徳島大学総合科学部助教授)「近代東北における“登州府人意識”の形成—偽りの出身地—」
- ⑧ 比較都市文化史研究会(近世大坂研究会と共催)
2006年7月22日(土) 13:00～17:00
大阪市立大学法学部棟6F第2会議室
報告: 塚田孝(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「近世大坂の都市下層と勲進」
中西威晴(大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生)・斉藤紘子(大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生)「書評: 渡辺祥子『近世大坂葉種の取引構造と社会集団』」
- ⑨ 国際シンポジウム「歴史学の手法を問う—東アジア学の方法論構築に向けて—」
2006年7月24日(月) 10:30～17:00
大阪市立大学学術情報総合センター 1F文化交流室
報告: ピーター・K・ボル(ハーバード大学教授)ベンジャミン・A・エルマン(プリンストン大学教授)
ディスカッサント: 浅見洋二(大阪大学大学院文学研究科助教授: 中国文学)・平田

茂樹（大阪市立大学大学院文学研究科助教授，COE事業推進協力者：中国史）・仁木宏（大阪市立大学大学院文学研究科助教授，COE事業推進担当者：日本史）・大黒俊二（大阪市立大学大学院文学研究科教授，COE事業推進協力者：西洋史）

⑩ 比較都市文化史研究会（関西スペイン研究会・グラシアン基金と共催）

2006年7月28日（金）14:00～18:00

大阪市立大学法学部棟6F第2会議室

報告：マリア・イサベル・デル・バル・バルディビエソ（バリャドリッド大学文哲学学部教授）「水と権力—後期中世スペインの都市・貴族・王権—」

コメント：宮崎和夫（筑波大学大学院人文社会科学部研究科助教授）

なお、大阪市立大学大学院文学研究科COE国際シンポジウム「都市文化理論の構築に向けて」（2006年3月18～19日）の第2日目の第1セッションは、大阪プロジェクト・重点研究の共同で準備したものである。

報告書などの刊行

① 『近松・大阪・世界—東西演劇文化の交流—』（2006年2月25日刊行）

2005年10月30日開催のシンポジウム「近松・藤十郎・大坂の歌舞伎」（『都市文化研究』第7号参照）の内容と市大演劇研究会の研究成果を一つに取りまとめたもの。

② 『大阪および日本の都市の歴史的発展』（2006年2月28日刊行）

2005年6月11日開催のシンポジウム「大阪および日本の都市の歴史的発展」（『都市文化研究』第6号参照）の内容を取りまとめたもの。

③ 『水の都市文化』（2006年3月20日刊行）

2005年3月19日開催のシンポジウム「水の都市文化」（『都市文化研究』第6号参照）の内容を取りまとめたもの。

④ 『「歴史遺産と都市文化創造」シンポジウム「都市城壁（惣構）を町づくりにかす』（2006年3月20日刊行）

2005年11月23日に開催された「歴史遺産と都市文化創造」シンポジウム「都市城壁（惣構）を町づくりにかすシンポジウム」（『都市文化研究』第7号参照）の成果を取りまとめたもの。

⑤ 栄原永遠男・仁木宏編『難波宮から大坂へ』（和泉書院，2006年3月30日刊行）

2004年3月刊行の報告書『難波宮から大坂へ—上町台地の新しい歴史像をさぐる—』の内容をさらに補充して、書店から刊行したものの。

重点研究中間報告会・中間報告書

これまでに大阪市立大学の重点研究に採択され、共同研究が遂行されてきた各事業について、2006年2月21日にその成果の報告会が開催された。文学研究科の重点研究「都市文化創造のための比較史的研究」についても、研究代表者（塚田孝）より報告を行った。また、2005年度末に中間報告書を提出した。

大阪・重点運営会議

以上のような研究活動を実施するために行なわれた大阪・重点運営会議は、以下の通りである。

第9回	2006年 1月 6日（金）	10:00～11:00
第10回	2006年 1月20日（金）	10:00～11:00
第11回	2006年 2月 3日（金）	10:00～11:00
第12回	2006年 2月13日（月）	13:00～14:00
第13回	2006年 2月17日（金）	10:00～11:00
第14回	2006年 3月 7日（火）	9:30～10:30
第15回	2006年 3月20日（月）	9:00～10:30
第16回	2006年 4月21日（金）	10:00～11:00
第17回	2006年 5月17日（金）	10:00～11:00
第18回	2006年 6月 2日（金）	10:00～11:00
第19回	2006年 7月 7日（金）	10:00～11:00
第20回	2006年 7月21日（金）	10:00～11:00

中国プロジェクトの活動

水内 俊雄

法政班については、上海サブセンターでの活動は別記するとして、日本側のアウトプットとして、2006年3月に中国語・日本語の両言語で、大阪市立大学都市文化研究中心上海分中心篇、大阪市立大学都市文化研究センター上海サブセンター編『近現代の上海と大阪的空間と社会、近現代の上海・大阪の空間と社会』（88頁）を刊行した。主にCOE研究員によって上海で収集された資料や聞き取りにもとづき、新たに書き下ろされた力作であり、日本語、中国語双方で読めるようになっている。簡易出版であり、以下で示すシリーズ本では、本格的に収録され

る予定である。

本班では、5巻本の出版計画を立てている。華東師範大学現代都市社会研究中心・大阪市立大学都市文化研究センターが出版元となり、すでに2005年度には、陳映芳編『棚戸区 記憶の中の生活史』が上海古籍出版社より刊行された。2006年度には林拓・水内俊雄編で『都市空間の変貌と社会と空間—住宅・生態・政治—』、2007年度には、陳映芳・水内俊雄編で『都市改造と都市生活の再編—生活・環境・社会—』を出版することが計画されている。

人文班については、2005年11月、上海と無錫で開催した第3回COE・華東人文学院共同研究会「中国近代化と都市型知識人」の報告論文集を出版するための編集作業を、COE側の山口久和（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）と人文学院の高瑞泉院長とで鋭意継続した。

教育班については、添田晴雄・杜成憲編『都市の小中学校におけるカリキュラム開発と実践に関する実証的研究—日本・中国の比較研究—【資料編】』（大阪市立大学文学研究科都市文化研究センター、166頁、2006年3月31日）を出版した。

東南アジア・プロジェクトの活動

中川 真

各サブセンター以外での活動では、以下の通りである。

2005年度の研究成果報告書として、山野正彦（編）「東南アジアにおける文化表象の諸相〔第3集〕」を刊行した。山野正彦（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）、中川真（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）、ブッサコーン・サムロントン、清水苗穂子、岡部政美、ジョハン・サリムが寄稿したほか、Peter Goheen の論文の翻訳が掲載された。

また、以下の要領で、東南アジアプロジェクト研究会（船場アートカフェと共催）が開催された

日時：2006年5月10日（水）19:00～21:00
場所：大阪市立大学文化交流センター大セミナー室

報告：Jose Semblante Buenconsejo, PhD
（香港大学客員研究員）“Hearing Power: Ideologies of the Self in a Philippine Auditory Culture”

アーカイブス・プロジェクトの活動

井上 徹

アーカイブス・プロジェクトは、大阪、中国、東南アジアの3プロジェクトと連携して、各地域の都市に関する研究成果を相互に関連させながら継続的に蓄積し、内外に発信することを課題としてきた。2005年11月以降におけるアーカイブス・プロジェクトの活動について報告したい。

1 事業推進会議

本プロジェクトは、事業計画を実施するために、下記の会議を開催した。

2005年度第6回会議

2006年3月15日（水）13:00～15:00

文学部棟251号室

本会議では、COE国際シンポジウム「都市文化理論の構築に向けて」（3月18日、19日）第2部に開設するアーカイブス・プロジェクトの第3セッションについて最終的な確認がなされた。また、今後の活動について意見交換を行った。院生を中心とした定例研究会を開くこと、2006年12月までの間に、本プロジェクトのシンポジウムを開催すること、などである。

2006年度第1回会議

2006年4月21日（金）12:00～15:10

田中記念館 メタセコイア

(1) プロジェクト・メンバー

2006年度のメンバーと役割を確認した。

チーフ：井上徹（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）

メンバー：井上浩一（大阪市立大学大学院文学研究科教授、COE事業推進担当者）、石田佐恵子（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、COE事業推進担当者）、森洋久（大阪市立大学大学院文学研究科助教授、

COE事業推進協力者)、イアン・リチャーズ(大阪市立大学大学院文学研究科助教授, COE事業推進協力者)、佐々木雅幸(大阪市立大学大学院創造都市研究科教授, COE事業推進担当者)、塚田孝(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)、中川真(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)、水内俊雄(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)、橋爪紳也(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)、仁木宏(大阪市立大学大学院文学研究科助教授, COE事業推進担当者)

COE研究員・特別研究員など: 後藤真, 山口智哉, 大倉祐二, 堤圭史郎, 山口晋, 西尾泰広, 梁仁實, 原口剛, 西部均, 山崎覚士, 大橋庸子, 芝田江梨

協力業者: 四井恵介(アシスト)

主な役割分担:

ホームページ(HP)担当……井上徹, イアン・リチャーズ
データベース(DB)担当……森洋久
研究会担当……石田佐恵子, 後藤真
翻訳関係……イアン・リチャーズ, 柴田江梨, 大橋庸子

*第2回会議(後掲)で追加されたメンバーも含む。

(2) 本年度の活動予定について

本年度の活動について審議した。

- ・データベース構築
- ・第1回定例研究会を5月2日に開催することとした。報告者は後藤真(大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生, COE研究員)。また第2回定例研究会は小川直人(広島大学大学院総合科学研究科大学院学生)を報告者として6月に開催予定。
- ・ホームページの整備事業, 事業計画「都市文化創造と国際比較研究のための映像データベースおよびネットワークの構築」(責任者: 石田佐恵子)についても話し合われた。

(3) 今年度のデータベースの確認

DB一覧

- ・音のアーカイブ(担当: 中川真)
大阪, バンコク, ジョクジャカルタにおける音環境のアーカイブ化。
- ・大阪市昭和17年航空写真(担当: 森洋久)

国際日本文化研究センター, 京都埋蔵文化研究所などとの共同作業により, 昭和17年航空写真(大阪市計画調整局所蔵)のグローバルベース化を行う。

- ・日本関係地図データベース(担当: 塚田・仁木)
日本史や地理学所蔵の古地図や絵図, 地籍図などをグローバルベースを用いて公開できるようにデジタル化を行う。
- ・中国関係地図データベース
上海地図DB(担当: 水内俊雄)
中国古地図DB(担当: 井上徹)
- ・釜ヶ崎資料データベース(担当: 水内俊雄)
都市問題資料センター所蔵, 釜ヶ崎関連資料のデジタルアーカイブ化を行う。
- ・大阪関係中世文書データベース(担当: 仁木宏)
文書リストと釈文。
- ・中国都市文献資料データベース(担当: 井上徹)
- ・グローバルベースの整備(担当: 森洋久)

(4) その他

本年度の経費の使途, 各DBでかかる経費の算出, 各DBの実施状況と計画などについて, 検討を行った。

2006年度第2回会議

2006年5月12日(金) 16:00 ~ 17:00

文学部棟2Fサブセンター会議室

(1) 今年度データベース事業計画

森洋久の報告をもとにして, データベース計画の問題点などが話し合われた。

1) アーカイブにおける基本的問題

1. 1次資料のデジタル化がどの程度進んでいるか。
2. デジタル化資料の検索が可能になっているか。
3. コンテンツとして見せられるだけの構成が伴っているか。

以上, 3つの基本的問題に照らして, 上記の各DBについて個別の問題点が指摘された。

2) DBの種別と特徴

<文献系>

大阪関係中世文書データベース(担当: 仁木)

*文書リストと釈文

大阪関係近世文書データベース(担当: 塚

田・仁木)

*文書リストと釈文。

中国都市文献資料データベース (担当: 井上徹)

*文献リスト

釜ヶ崎資料データベース (担当: 水内)

*今年度はデジタル化の作業に集中。次年度以降, COEとは別の企画のなかで, 整理, 解説を加えることも可能。

<地図系>

音のアーカイブ (担当: 中川)

日本関係地図データベース (担当: 塚田・仁木)

*原版の確認が必要。

惣構えをともなう近世城下町絵図の集成 (担当: 仁木)

*絵図一覧と地形図名。

中国関係地図データベース (担当: 水内・井上徹)

*原版からのデジタル化。

昭和17年大阪市航空写真 (担当: 森)

*ある段階で外注も必要。

タイの写真・地図 (担当: 山野)

*写真は, 計1000枚程度。バンコクとチェンマイ。今年度はデジタル化の作業に集中。

特記: 地図系に関する共通の問題として, GLOBALBASEへの登録作業, 現代の地図との対応が必要。

3) 公開について

ホームページ等の整備を行い, コンテンツとして見せられるだけの構成を確保する必要がある。

4) 経費

以上の作業にかかる経費を試算し, 今年度のアーカイブスの予算内で処理できることを確認した。

<その他>

・今後の作業日程

5月末 各種資料の情報を確定し, 見積を出す (担当: 森, 四井)。

9月末, 10月初に開催されるCOEウィークスにおいて, 可能な範囲で各DBを公開する。

12月末 各DBのコンテンツの完成版を提出する。

(2) 総括シンポジウムにおけるアーカイブス・プロジェクトの企画

COEのメインシンポジウムは9月30日, 10月1日の両日に開催される。アーカイブス関係で, 1セッションを設ける。報告は3本程度。今後, 地理, 歴史, 映像, GISなどのジャンルより, 候補者をあげてもらい, 次回の会議で, セッションの内容, 候補者の選定を検討する。

(3) その他

1) プロジェクトメンバーを確認した。

2) HP関係では, COE研究員, COE特別研究員, 事業推進協力者が確定次第, 事務局より, アシストに通知し, HPの更新の作業に入る。

2006年度第3回会議

2006年5月31日 (水) 17:00 ~ 18:00

文学部棟2Fサブセンター会議室

(1) 総括シンポジウムに開設するアーカイブス・プロジェクトのセッションについて

・アーカイブスのセッションでは, 文献, 地図の2つのパートを設ける。映像も候補にあがったが, 別にシンポジウムが計画されているので, 今回は入れないこととした。

森洋久, 後藤真から, 10名前後の候補者が推薦された。このなかから, 文献, 地理のパートでの報告者を選定した。センター会議で承認されれば, 交渉に入る。また, コーディネーターは森洋久がつとめる。

・9月末の総括シンポジウムまでに, 一部のDBは完成するので, それらを公開できる場を設ける。DBの作製担当者が説明しながら公開することをイメージしている。

(2) データベース化予算について

森洋久より, 2006年度データベース予算に関する資料が提示された。この資料にもとづき, 個別のコンテンツにつき, 検討を行い, 作業の優先順位などを話し合った。

また, COEのデータベース構築に際して, 独自のサーバーが必要とされるので, 予算に盛り込むこととした。(会議後, 井上浩一事務局長に了承を得た)。

2 研究活動

(1) シンポジウム「多分野に広がる地理空間情報」Geographic Spatial Information Spread throughout Marvelous Realms (共催: 大阪市立大学都市文化研究センター (COE), 地理情報システム学会, SIG・自律分散アーキテクチ

ヤ, GLOBALBASE PROJECT)

場所: 新梅田研修センター

日時: 2006年1月14日 (土)

挨拶: 藤田晴啓 (東洋大学国際地域学部教授, SIG-自律分散アーキテクチャ代表)

森洋久 (大阪市立大学大学院文学研究科助教授, SIG-自律分散アーキテクチャ副代表) シンポジウム「多分野に広がる地理空間情報」について

セッション1「考古学から公共分野へ」

チェア: 藤田晴啓

報告: 宇野隆夫 (国際日本文化研究センター教授)「考古学GISの試み」 An Attempt of Archaeology with GIS

Lun Wu (北京大学教授, RS/GIS 研究所副所長)「考古学空間情報アーキテクチャに関する研究」 Study on the Architecture of Spatial Information Archaeology

Daming Wang (北京大学 RS/GIS 研究所員)「中国古磁器の考古学研究におけるGISの応用と反応」 Reflection on the Application of GIS in Archaeological Research of Chinese Ancient Ceramics

河野一隆 (九州国立博物館企画課長)「WEB-GISデータベースによる博物館と学校教育の協業の方法と実践」 The Method and Practice for the Cooperation of Museum and the School Education with the WEB-GIS Database

藤田晴啓 (東洋大学国際地域学部教授)「東京福祉厚生マップベース開発」 Development of Tokyo Metropolitan Welfare Map Database

セッション2:「社会へ広がる地理情報—Read Worldの動向」

チェア: 森洋久

報告: 高木悟 (YRPユビキタスネットワーク研究所)「ハイパーレイヤリングアーキテクチャのSVGへの適用とその標準化」
坂下哲也 ((財) データベース振興センター・GIS推進部長)「g-Life推進に向けて」 Toward Promotion of g-Life

臼井澄夫 (三菱電機株式会社IT宇宙システム推進本部主管技師長)「高精度測位技術の現在」 Current Trend of Satellite Positioning Technology

国司輝夫 (GIS総合研究所理事)「NPOと地域コミュニケーションにおける地理情

報サービスの活用」 Activity of Geographic Information Service in NPO and Regional Communications

セッション3:「表現する都市—GISの新しい可能性」

チェア: 渡辺康一 (ウェブマックス株式会社代表取締役社長)

森洋久「平安人物志データベース」 Heian Jinbutsu-Shi Database

中川真 (大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「地理情報としてのサウンドスケープ・デジタル・アーカイブ」 Digital Archive of Soundscape as Geographical Information

花村周寛 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)「地理情報がひらく街の可能性」

水内俊雄 (大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「GIS地図が表現する分極化する都市大阪—自治体・市民をエンパワーするツールとして—」

パネルディスカッション: 地理空間情報の可能性

終了挨拶: 森洋久

(2) アーカイブス・プロジェクト研究会

1) 第1回研究会

2006年5月2日 (火) 17:00 ~ 19:00

文学部棟251号室

報告: 後藤真 (大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生, COE研究員)「日本近代史料のデジタルアーカイブ化に関する諸問題—京都府総合資料館の近代公文書へのEAD使用を素材として—」

2) 第2回研究会

2006年6月7日 (水) 16:00 ~ 18:00

文学部棟251室

報告: 小川直人 (広島大学大学院総合科学研究科大学院学生)「蒐集から『都市写真史』へ—「上田貞治郎写真コレクション」の史料学的一考察」

3 ホームページ関係

(1) 2006年1月末までに英語版HPを完成させた。

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/UCRC/index-e.html>

(2) 2006年度版HPを更新した。

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/UCRC/index.html>

4 「都市文化創造と国際比較研究のための映像データベースおよびネットワークの構築」(担当者:石田佐恵子)

エスノグラフィック映像コレクションに、新カテゴリー「研究者の作る映像」を追加した。2006年度用の映像コレクション作品を追加する作業を継続中で、既に1作品公開した。

研究会は、2006年4月29日、7月9日の2回、「映像社会学研究会(代表:伊藤公雄 京都大学大学院文学研究科教授)」と共催で開催した。

COE特別研究員の梁仁實が、エスノグラフィック映像コレクション(メディアクト)のインタビュー記事作成のために、大韓民国へ出張した(2006年7月17日~7月23日)。

国際シンポジウムの企画

井上 徹

本COEセンター会議は、COE全体の事業として、国際シンポジウムを2006年3月に開催することを決定した。この決定を受けて、2005年7月、企画委員会を設けて開催の準備に入った(『都市文化研究』第7号参照)。11月からは、企画委員会を解散し、新たに実行委員会を発足させて、シンポジウムの実施を検討した。実行委員会の会議は計5回開かれた(11月30日、12月14日、1月18日、2月1日、3月10日)。

1 実行委員会メンバーと役割分担

総括責任者: 榮原永遠男(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)

同副責任者: 山野正彦(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)

実行委員長: 井上徹(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)

各プロジェクトとの連絡、及び分科会の企画: 塚田孝, 中川真, 水内俊雄(大阪, 東南アジア, 中国各プロジェクトチーフ)

事務関係の総括: 井上浩一(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)

広報, 会場設営, 報告者との連絡など: 土屋礼子(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進協力者), 多和田裕司(大阪市立大学大学院文学研究科助教授, COE事業推進協力者), 添田晴雄(大阪市立大学大学

院文学研究科助教授, COE事業推進協力者), 石田佐恵子(大阪市立大学大学院文学研究科助教授, COE事業推進担当者)

事前研究会の立案: 大黒俊二(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進協力者)

翻訳等: イアン・リチャーズ(大阪市立大学大学院文学研究科助教授, COE事業推進協力者)

2 事前研究会

シンポジウムに先立って、下記の事前研究会を開催した。

1) 全体研究会(担当: 大黒)

日時: 2006年3月2日(木曜) 13:30 ~ 16:00

場所: 法学部棟第2会議室

アンソニー・リード, 濱下武志, 中川真各報告者の研究の紹介と討論。

2) 第1セッション研究会(担当: 塚田孝)

日時: 2006年2月18日 13:00 ~ 17:00

場所: 法学部棟第2会議室

仁木宏, 辛徳勇各報告者の研究の紹介と討論。

3) 第3セッション(担当: 石田佐恵子)

日時: 2006年3月15日(水) 13:00 ~ 15:00

場所: 文学部棟2F 251号室

森洋久, 高野光平各報告者の研究の紹介と討論。

3 プログラム

大阪市立大学大学院文学研究科COE国際シンポジウム「都市文化理論の構築に向けて」

Towards the Construction of Urban Cultural Theories

会場: 大阪市立大学全学共通教育棟811号室

日時: 2006年3月18日(土) 13:00 ~ 17:30

3月19日(日) 10:00 ~ 17:15

第1部 [3月18日] アジア諸都市における多元性とコスモポリタンな性格 The Plural and Cosmopolitan Culture in Asian Cities

報告: Anthony Reid (National University of Singapore) 「アジアにおける沿海貿易の伝統としての世界都市」 The Cosmopolitan City as an Asian Maritime Tradition

濱下武志(京都大学東南アジア研究所教授) 「東アジア海域における沿海都市間ネットワークの歴史的変遷」 Historical Transformation of Coastal Urban City Networks in East China Sea Zone

中川真(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「グローバル化時代における東南アジアの都市文化創造のダイナミクス」Dynamics of the Creation of Urban Culture in Southeast Asia in the Globalized Era

コメント:大黒俊二(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進協力者)

第2部〔3月19日〕都市文化創造のための基礎研究—多元的考察と資源化— Basic Studies for the Creation of Urban Culture : Plural Analysis and Resource Making

第1セッション

報告:仁木 宏(大阪市立大学大学院文学研究科助教授, COE事業推進担当者)「前近代日本における都市空間と文化形成」
伊藤毅(東京大学大学院工学系研究科教授)「都市・空間・文化」
辛徳勇(北京大学)「清代都市の路上に見る公共文字情報」

第2セッション

報告:鄧永成(香港バプティスト大学)「今日の中国のアーバニズム/都市性—『都市革命?』」
山野正彦(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)「都市景観の解釈と再構築—文化・政治地理学の視点から—」
関根康正(日本女子大学人間社会学部教授)「『ストリートの人類学』という構想」

第3セッション

報告:森洋久(大阪市立大学大学院文学研究科助教授, COE事業推進協力者)「文化資源のための空間情報処理」
高野光平(東京大学大学院人文社会系研究科助手)「広告は都市文化の『理想』を記録する—初期テレビCMアーカイブスを例に—」

総括討論

上海・サブセンターについて

水内 俊雄

継続的に、サブセンターのニュースレターを発刊し、本センターの重要性をひきつづきアピールしている。

活動については、すべて上海サブセンターのホームページにアップされている。また昨年度までの成果を、『棚户区(スラム):記憶の中の生活史』と題して、上海古籍出版社から2006年5月に刊行した。大阪市立大学都市文化センターとの合作であることが明記され、法政班における2冊目の公刊物として出版されたことは喜ばしい。また都市更新による地域の変貌については、調査班をつくり、6月から聞き取りを中心とする現場調査がはじまった。

2冊目の本の原稿集めと編集を開始した。仮題『都市更新と社会—空間関係の変貌』で、日本側は水内俊雄(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)が、上海側は林拓が編集責任者となっている。

北京・サブセンターについて

井上 徹

北京サブセンターはその拠点を中国社会科学院歴史研究所におき、「前近代の日本と中国における比較史的研究」を課題として、日中の歴史的都市の比較研究を、都市に内在する文化的要素に焦点を当てて、地域的性格と歴史的特性の考察を通じて比較検討している。

1 データベース

2004年7月、歴史研究所内にパソコンを設置し、インターネットを媒介とした研究交流のシステムを開始して以来、COEと歴史研究所との間で、このシステムを活用した交流が続いている。2005年度末までに、歴史研究所側では、ホームページ「比較城市研究」を更新し、都市に関する各種のデータベースを充実させた。また、2006年度においても、データベースを中心としたコンテンツを追加し、整備する予定である。

COE側では、2006年3月、比較都市研究の成果の一環として、下記のデータベースを作成し

た。

(1) 中国古地図のデジタル化

担当：山崎覚士 (COE特別研究員), 山口智哉 (大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生)

- 1) 内題：浙江省城並西湖全図／袋題：浙江省城並西湖全図／刊年：中華民国3年 (1914)／作者：浙江陸軍士官研究所畢業員黄超 (測量・作図), 浙江陸軍測繪学堂畢業生夏耀宗 (註記)／版元：上海民国編訳書局／寸法：536×623 (枠内：508×584)／縮尺：一万分の一／色刷
- 2) 内題：寧波七邑全図／袋題：寧波七邑全図／刊年：中華民国36年 (1947)／作者：不明／版元：鎮海三郷公益堂／寸法：765×533 (枠内：667×511)／縮尺：三十三万分の一／色刷
- 3) 内題：杭州西湖詳図／袋題：杭州西湖詳図／刊年：中華民国38年 (1948)／作者：金擎宇／版元：亜光輿地学社 (発行人：顧頡剛, 総発行：大中国図書局)／寸法：754×540 (地図枠内：591×503)／縮尺：二万分の一／色刷
- 4) 内題：上海杭州近傍図／刊年：昭和12年11月15日印刷, 同11月20日発行／作者：大日本帝国陸地測量部／寸法：1150×820 (枠内：1035×720)／縮尺：二十五万分の一／色刷
- 5) 内題：蘇州城廂内外全図／刊年：不明／作者：不明／版元：不明／寸法：1170×610／縮尺：不明

(2) 「中国都城市文献目録」

担当：山崎覚士 (COE特別研究員), 山口智哉 (大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生), 永田拓也 (同上), 辻高広 (同上) 中国古代から近世までの時代を対象として、歴代の首都に関する研究の目録を作成した。
<http://ucrc.lit.osaka-cu.ac.jp/database/his-china/>

2 研究交流

COE国際シンポジウム「都市文化理論の構築に向けて」(2006年3月18日, 19日)が開催されるに際して、北京サブセンターを通じて、辛徳勇氏 (北京大学歴史系)を派遣していただいた。発表題目は「清代都市の路上に見る公共文字情報」である。

また、2006年9月30日, 31日に開催される

COE国際シンポジウムでは、万明氏 (北京社会科学院研究員)を招聘する予定である。

3 研究成果報告書

本年度は、COEプロジェクトの最終年度であるので、北京サブセンターとの共同研究についても、これまでに進めてきた研究の成果を公刊する予定である。すでにサブセンターとの間で、平成19年3月に、北京の出版社から成果報告書を刊行することで合意し、日中双方の執筆陣を検討中である。

ジョクジャカルタ・サブセンターについて

中川 真

2005年度の出版物として第3回アカデミックフォーラム報告論文集「Tourism and Education」が刊行された。

2006年5月27日早朝に、中部ジャワの南部を震源地とする大きな地震が発生し、ジョクジャカルタ市の南部、バントウル県を中心に大きな被害が発生した。共同研究を行っているインドネシア芸術大学はバントウル県に位置し被害は甚大であった。大学の建物のほぼ半数が全壊し、6月初旬に授業を打ちきって、試験のみを行い、緊急避難的状况に陥っている。教員に死者は出なかったが、数人の学生が死亡し、負傷者は多数、教職員を含めて家を失った者の数は多い。もう一つの共同研究校であるガジャマダ大学は、ジョクジャカルタ市北部にあって、大学の建物じたいの被害は大きくなかったが、教職員、学生のなかには家を失った者も多く、今後の教育や研究に支障が出るものと予想される。

両校とも、被災地に心理学者や芸術家などを派遣して、トラウマのケアなどの活動を積極的に行っている。サブセンターの置かれている建物もまた部分的に被害は受けたが、機器等には損傷を受けることはなかった。

中川真(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)が6月21～24日に現地を訪れ、両校の関係者に会った。COEの共同研究は今年も変わらず行うことを確認し、第5回のフォーラムは2007年1月に、「震災からの復帰, 再生。芸術文化の果たす役割」というテーマで行うこととした。

なお、両校には、大阪市立大学大学院文学研究科の教員が中心になって集めた義援金を手渡され、被災した学生の奨学金などとして使われることとなった。

ラロンコン大学芸術学部のチャナロン・ポーンリングロイ学部長、ブッサコーン・サムロント副学部長と今年度の共同研究について打合せを行った。

バンコク・サブセンターについて

中川 真

2005年度の出版物として第3回アカデミックフォーラム報告論文集「Cultural Heritage and Urban Tourism」が刊行された。

2005年12月14日にバンコク市内マングリンホテルにおいて第4回アカデミックフォーラム「Cultural Resources Management」が開催され、7人の報告と討論があった。

報告者と報告タイトルは以下の通りである(発表順)。

1. Naofumi Kishimoto (大阪市立大学) :
Preservation and practical use of cultural heritage in Japan
2. Yongtanit Pimonsathean (タマサート大学) :
Cultural resources management in historic community in Bangkok; the Tha Tian case
3. Natsuki Tabuchi (大阪市立大学) :
Soundscape in Chiangmai; urban and suburban
4. Wichai Srikom (シルパコーン大学) :
Urbanization and urbanism of Thailand
5. Hirohisa Mori (大阪市立大学) :
Geographical information processing for cultural resources
6. Bussakorn Sumrongthong (チュラロンコン大学) : Cultural resource management at Koh Kred
7. Pawan Mogya (チュラロンコン大学) :
The bonding of all things living; the SOS approach to the problem of stray animals in temples and other cultural sites

山野正彦(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)が2006年6月18～27日に、中川真(大阪市立大学大学院文学研究科教授, COE事業推進担当者)が6月19～20日にバンコクサブセンターを訪問し、チュ

ハンブルク・サブセンターについて

栄原 永遠男

2006年9月26日～28日に、COEと文学研究科の共催で行うインターナショナルスクールの講師として、イボンヌ・シュルツ・ティンダ助教授(ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所)を招聘する予定で手続きを進めた。

ロンドン・サブセンターについて

栄原 永遠男

SOAS349号室を東京外国語大学COEプログラムと共同利用する体制を維持した。

文学研究科叢書編集委員会

石田 佐恵子

2005年度委員

中村圭爾(COE事業推進担当者, 歴史学, 委員長)
石田佐恵子(COE事業推進担当者, 社会学)
岸本直文(COE事業推進協力者, 歴史学)
高坂史朗(COE事業推進協力者, アジア都市文化学)
小林直樹(COE事業推進協力者, 国語国文学)
松浦恆雄(COE事業推進協力者, 中国語中国文学)

第1回委員会

2005年7月1日

前年度委員会からの引き継ぎ。

第2回委員会

2005年8月2日

叢書第4巻の企画について。

2004年度までの成果出版物のリストアップ。
第3回委員会
2005年9月29日
叢書第4巻の主題を「近代大阪の都市文化」
に決定。所収論文候補の選定。
第4回委員会
(以下、主にメーリングリストにて活動)
2005年10月～2006年3月
叢書第4巻の企画確定、執筆依頼。
最終原稿の確定、校正、編集作業。

2005年度末
文学研究科叢書第4巻『近代大阪と都市文化』
清文堂より刊行。

『都市文化研究』編集委員会

仁木 宏

1) 2006年度委員

高梨友宏 (COE事業推進協力者, 哲学)
仁木 宏 (COE事業推進担当者, 歴史学, 委員長)
川邊光一 (COE事業推進協力者, 心理学)
イアン・リチャーズ (COE事業推進協力者,
英語英米文学)
神竹道士 (COE事業推進協力者, ドイツ言語
文化学)
多和田裕司 (COE事業推進協力者, アジア都
市文化学)
平田茂樹 (COE事業推進協力者, 歴史学)
木村好美 (COE事業推進協力者, 社会学)
この他, 編集委員会 (会議) には, 岩澤孝子
(編集補佐, COE事務局) が出席している。

2) 2005年末から2006年度 (途中) までの主な活 動 (『都市文化研究』第7号掲載のニュース以 降の活動)

[編集主任]

2005年度

第7号担当=川邊光一

2006年度

第8号担当=神竹道士, 多和田裕司

[査読体制]

投稿された論文については, 原則として,
第1次・第2次の二度の査読を課すことにし
ている。第1次査読では, 1本の論文につき,

編集委員1名, 非編集委員 (文学研究科教員)
1名の2名で査読する。第2次査読は, 編集委
員各1名が担当する。

査読にあたっては, 査読表を活用し, 公正
かつ正確な査読を期した。査読表はホーム
ページ上に公開している。

査読を受けた論文を他の論文類と区別する
ため, 日本語キーワードの後に, 論文受理・
採録決定の日付を付けている。

[第7号について]

反省点 (注意点) として, スケジュール調
整会議を, 編集主任, 編集補佐, 印刷会社,
表紙デザイナーの間でおこなうべきであるこ
とが確認された。

3) 活動記録 (2006年7月10日現在)

(『都市文化研究』第7号掲載のニュース以降
の活動)

2006年

1月12日 『都市文化研究』第7号の集中校正

2月28日 第7号納品

5月10日 『都市文化研究』第8号投稿論文の
第1次締切 (論文6本の投稿あり)

5月12日 第28回編集委員会

(1) 第7号の反省

(2) 第8号の内容確認

(3) 第8号への投稿論文の第1次査読者の
決定

(4) 第8号の刊行スケジュールの確認

6月5日 特別寄稿・在外研究レポートなど
の締切 (特別寄稿1本, 書評1本の投稿あり)

6月2日 第29回編集委員会

(1) 投稿論文の第1次査読の結果決定→投
稿者へ書き直し指示。

(2) 第9号のスケジュール等確認。編集主
任は多和田委員と神竹委員。

6月30日 投稿論文の第2次締切 (論文6本の
投稿あり)

7月7日 第30回編集委員会

(1) 投稿論文の第2次査読の結果決定

(2) 集中校正 (8/10) 動員体制の確認

(3) 神竹・多和田両委員出張中のバック
アップ体制の確認

7月10日 ニュース部門原稿の締切

7月14日 印刷業者・表紙デザイナーと編集
作業打合せ

7月21日 入稿

執筆者アンケートの実施